

# 2025年度 安芸高田市総合学力調査結果

2026年3月19日

【実施日】 2026年1月15日、16日

【実施学年】 小学校第1学年～第6学年 中学校第1学年、第2学年

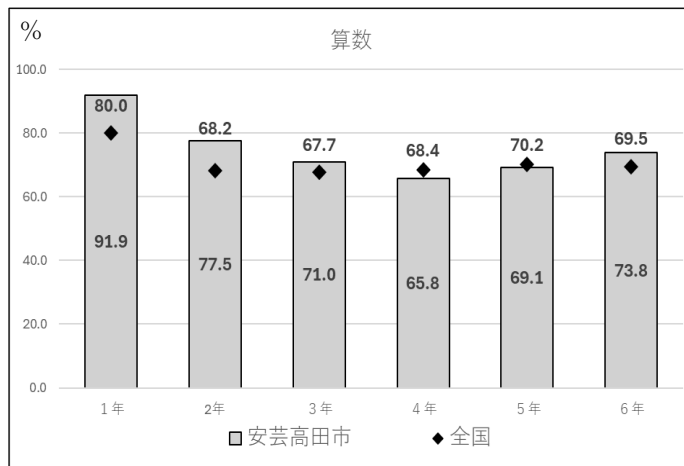
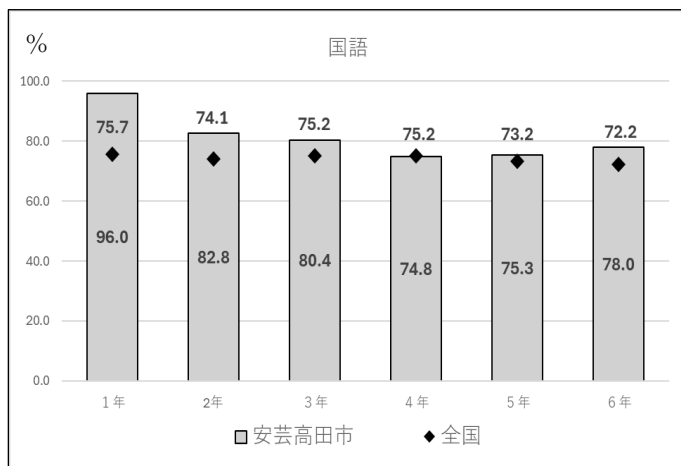
【実施教科】 小学校 国語、算数 中学校 国語、社会、数学、理科、英語

## ～達成率（ステップ）について～

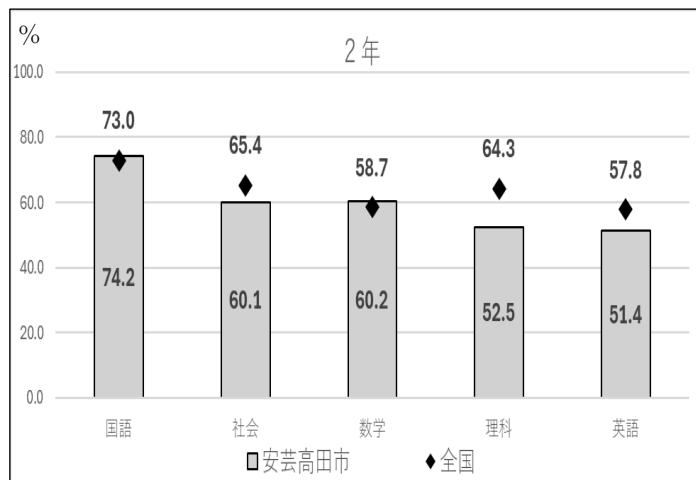
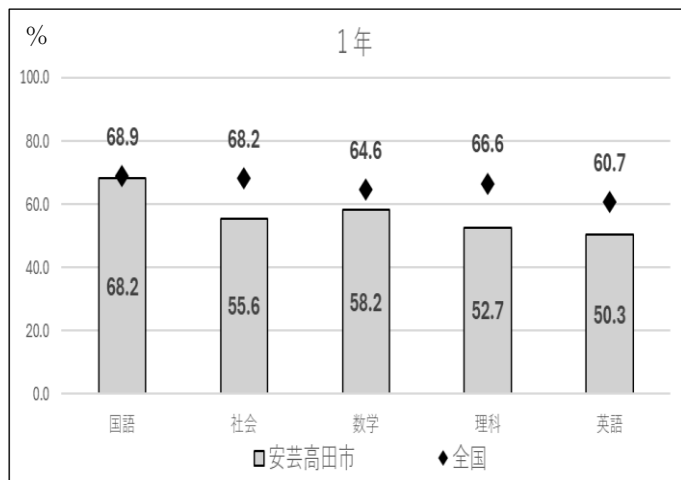
達成率（ステップ）とは、子どもたちの「自ら学びに向かう力」を育成する視点で示された5段階の新しい学力のものさしです。「どの問題を解くことができ、どの問題を間違えたのか」を分析することで「全問題数のうち何問正答したか」という考え方の正答率だけでは測れなかった学力の到達度を表します。ステップ3を達成ラインとしています。

## ◆教科調査結果

### <小学校 平均達成率>



### <中学校 平均達成率>



## ～達成率（ステップ）の状況～

（小学校 ステップ）

- ・ステップ1,2の割合が大きいのは、4年生国語25.2%（昨年度より▼11.2%）、5年生国語24.7%（昨年度より▼8.7%）、4年生算数34.3%（昨年度より△11.2%）、5年生算数30.4%（昨年度より△4.8%）である。

（中学校 ステップ）

- ・1,2学年の国語、2学年の社会・数学以外は、ステップ1・2の割合が40%を超えている。特に、理科は1学年47.4%、2学年47.5%、英語は1学年49.7%、2学年48.6%であり、半数の生徒がステップ1・2の割合である。

## ～市の取組の成果と課題～

- 全国学力・学習状況調査を踏まえて、各校が課題解決に向けた進捗管理シートを作成し、授業改善等に取り組んだ。また、市の主催研修で各校の取組状況を交流し自校の取組に活かした。
- 各校の授業研修において、単元のねらいに迫るため、児童生徒が仲間と共に課題に取り組み、理解を深めることや、対話を通じて得た学びを自分のものとして再構成する「個に還す」ことを意識した授業デザインや支援方法などを協議し実践した。
- 各校では、「個の見取り」によって、児童生徒の一人一人の学習状況やつまづき等を把握し、個に応じた指導の工夫をした。
- 中学校においては全教科の達成率が全国平均を下回っていることから、全国・学力学習状況調査結果を踏まえた組織的な授業改善に係る研修が不十分だったと考える。
- ステップ1・2の児童生徒の割合が高い教科があることから、「個の見取り」を授業改善に生かしていくことが不十分だったと考える。

## ～今後の取組～

- 各校で調査結果を分析し、改善計画を立て、課題の解決につなげる。
  - ・学年、学級、教科ごとの成果と課題、課題に対する取組を明らかにする。
  - ・ステップ1・2の児童生徒へのきめ細やかな支援を行う。
  - ・デジタル教材の活用、問題データベース等を効果的に活用し、個々の課題に即した学習を充実させる。
- 校内研修や市主催研修等において、児童生徒が授業のねらいを達成し「分かった」と実感できるような授業となるよう、協同学習による授業改善をさらに推進する。
- 安芸高田教育推進会と連携し、課題のある教科、領域に焦点を当てた協同学習による授業づくりについての研修を充実させる。
- 教員が配慮を要する児童生徒の様々な実態に即した支援について学ぶことができるよう研修を充実させる。